

兵庫県保険医協会北阪神支部

—新春政策研究会・懇親会のご案内—

新高齢者医療制度の行方

—民主党政権の医療政策を考える—

講師 協会政策部長・副理事長
加藤 擁一 先生

日時 **2011年1月15日(土)** 16:00 ~ 17:30

会場 **家庭料理 うめ家** (ご参加の方には詳細地図をお送りします)
(伊丹市宮ノ前1-2-34 阪急伊丹駅から徒歩約5分)



懇親会 17:30 ~ (於: 同上 参加費: 5,000円)

厚生労働省は12月8日、後期高齢者医療制度に代わる「新制度」の最終案を示しました。

その中身は75歳以上の高齢者を差別し別勘定にする現行制度の仕組みを温存するものです。また、現在行われている、低所得者の保険料を軽減する追加的な措置を「段階的に縮小する」方針を新たに打ち出しました。さらには、70~74歳の患者負担を、13年度に70歳に到達した人から順次、医療費の1割から2割に引き上げることも検討されています。

こうした09年の総選挙公約を無視した政策によって、医療機関は、国民はどのような影響を受けるのでしょうか。果たして国民の健康も脅かされるほど日本にはお金がないのでしょうか。これらの問題について政策部長の加藤先生に報告をいただき、温かい鍋を囲みながらの討論も予定しています。ぜひご参加ください。



(切り取らずに返信ください) 【 F A X 返信 】 078-393-1802

● 1月15日(土) 政策研究会に

・ () 出席する () 名 *人数をお知らせください

地区 _____
御氏名 _____ 医療機関名 _____

兵庫県保険医協会

北阪神支部 ニュース

2011年1月5・15日号 No.209
発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階
(078)393-1801 FAX(078)393-1802
<http://www.hhk.jp/>



二兎を追うもの一兎をも得ず

北阪神支部長 中井 通治

みなさま明けましておめでとうございます。昨年はいろいろとお世話になり心より御礼申し上げます。本年も保険医協会をどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は「暑」の年でした。坂本龍馬が異常なブームです。彼の生き様が万人に共感をもたらしたからでしょうか。政治界では平成維新とされています。明治にあって平成にないもの、それは理念と戦略です。

医療も例外ではありません。せつかく世界に冠たる医療制度を持ちながら、これらがないために退化しています。後期高齢者医療制度の混迷、介護制度の後退、予防接種の遅れ、すべてに軋みが生じているのです。不況という名の下に医療費を削ることばかり考えている財務省により、医療を受ける側と医療を行う側に信頼という大切な魂が失われているのです。

ビートルズの PEACE & LOVE、孫子の戦わずして勝つことが最良の策である。平和と信頼こそ味方、戦争と傲慢と甘えが敵なのです。長寿は自慢できることで老人と子どもを大切にできる国が栄えるのです。広い視野で物事をとらえることが大切です。



本年もよろしくお願いいたします

北阪神支部幹事一同

宝塚社保協「後期医療」廃止宣伝行動

「姥捨て山」は直ちに廃止を



中井通治支部長、脇野耕一副支部長が副会長をつとめる社会保障をよくする宝塚の会(宝塚社保協)は12月15日、後期高齢者医療制度保険料の年金天引き日にあわせ、阪急逆瀬川駅前で制度廃止を求める宣伝・署名行動を行った。13人が参加し、1時間で71筆の署名を集めた。

宣伝に立ったとなき正勝市議(共産)は「後期制度を廃止して元の老人保健制度に戻すことは去年の総選挙時の民主党政権の公約の一つ。『新制度』は年齢による差別と保険料が自動的に上がる仕組みはそのまま残すもの」「高齢者の負担を増やし、受診抑制につながる同制度は直ちに廃止を」と訴えた。

署名に応じた市民からは「負担増か医療削減か」という二者択一そのものがかおかしい」「窓口負担が高い。せめて高齢者と子どもの医療費ぐらひは無料化にならないか」「民主党政権は閣僚の失言や“政治とカネ”問題などでも失点ばかり」などの感想が寄せられた。



市民に訴えるとなき宝塚市議(共産・上)、寒空の下で多くの市民から協力を得た(下)

伊丹社保協議会請願

「安心の国保」の願い実らず

小泉勇支部幹事が会長をつとめる社会保障をよくする伊丹の会(伊丹社保協)が12月議会に提出した「市国保改善」のための請願書は、賛成1(共産)、反対5(新政会、公明党、連合市民、伊丹みらいネット、市民クラブ)で否決された。

同請願は、「国保負担割合を引き上げるように国に意見書を上げること」「国民税の引き下げ」「国保税や窓口負担の減免制度の拡充」を要求項目として提出。北阪神支部も会員協力を呼びかけて取り組んだもの。5,000人弱の市民の声を集めて市議会に届けたが、項目の部分採択も認められなかった。ご協力いただいた先生方、ありがとうございました。

歯科医療安全研 感想文

病院歯科の“支え”実感

西宮市・歯科 鈴木 規之



病診連携のシステムを詳しく説明

歯科部会は12月5日、近畿中央病院(伊丹市)で歯科医療安全管理対策研究会「近畿中央病院見学と講習会」を開催(前号既報)。同病院の地域医療室・口腔外科外来を見学後、薬師寺登口腔外科部長、陽川信子主任歯科衛生士、西川尚子医療安全推進室長・副看護部長が、それぞれ「転ばぬ先の杖~こんなことを知っていたら」「安全な食事と口腔ケア」「みんなで共有しよう医療安全」のテーマで講演。36人が参加した。感想文を紹介する。

医院が流行るコツは何でしょう? ひとつは、患者さんの安心感へのサポート。つまり「いつでも見守られている」という感覚を持ってもらうことでしょうか。

近畿中央病院の地域医療福祉センターは、われわれ開業医にとってそういう存在です。難しい抜歯や持病を持った方など、「いつでもここに紹介できる」という心のゆとりを持って、日々の診療に打ち込めるということ。

例えば、早朝の始発のホームで何か暖かいものを売っているのを見て“ホッ”とする。よくわからない例えですが、私には支えられているような気持ちになります。

入院患者さんの嚥下障害に対するアプローチの紹介があり、とろみ食を実食しました。実は、父親が肺炎で他病院に入院していることも、今回参加した動機でした。父の場合は、入院前に嚥下に問題がないことがわかっていたので、主治医の先生と相談して、経鼻チューブを取り、早期に体力の回復がみられました。ただ、その決断は相当迷いました。歯科医の私が、肉親に対してでさえそうなのですから、現場の苦労はさぞかしと思います。

また、薬師寺先生の熱意と、メカに対する思いにはただただ感心でした。

■会員専用のメーリングリストを開設しております。

登録いただける方は下記までお知らせください

e-mail:hyogo-hok@doc-net.or.jp

TEL:078-393-1801 FAX:078-393-1802